

台東区立中央図書館

郷土・資料調査室報

2010・平成22年10月 第1号

酒井抱一というと画業が有名ですが、その作品や美術のお話のみにとどまらず、抱一の教養溢れる人柄、多方面にわたる交友関係などにも触れていただきます。

・講師：河合 正朝氏

(慶應義塾大学名誉教授)

「ゆかりの文学講座」

「酒井抱一と根岸の文人」

・2009年8月22日

〈関連行事〉

2009年6月～10月14日

《会期》

から明治時代を中心にご紹介しました。

一時間ほどの講義の後、明治から昭和にかけて作家・文化人が多く住み、交流の拠点となった根岸をめぐるしました。

根岸

「移り変わるイメージ」

台東区は、古くから文学者が暮らし、

たびたび文学作品の舞台となりました。本展示では寺門静軒・酒井抱一・

正岡子規・饗庭篁村など根岸に住んだ

文人たちに注目し、特に文学に関連深

い地域としての「根岸」のイメージが

どのように培われたのか、どのように

変わっていったのかを、江戸時代後期

から明治時代を中心にご紹介しました。

昨年の「ゆかりの文学コーナー」リニューアル以降、郷土・資料調査室では多くの行事を行なっています。今回は、昨年からの行事をまとめてご紹介いたします。

□台東区ゆかりの歴史散歩

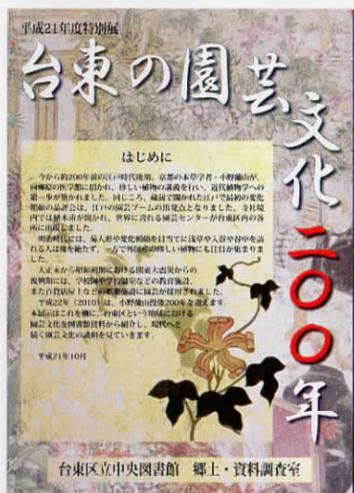
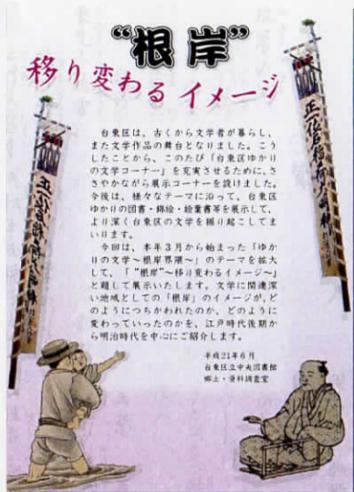
「根岸を歩く〜根岸派の作家を訪ねて〜」

・2009年9月12日

・講師：長沼 秀明氏 (明治大学講師)

・コース：世尊寺↓御行の松↓子規庵・

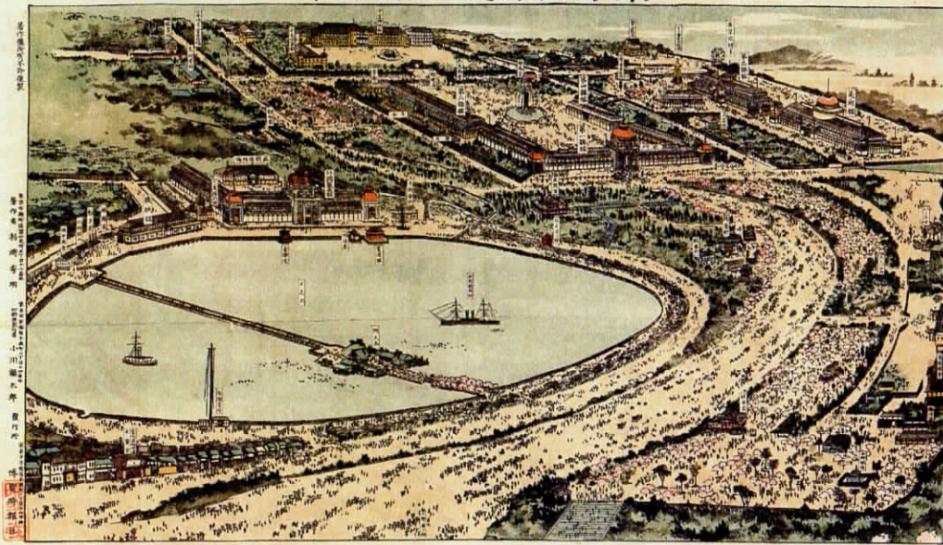
書道博物館



江戸時代後期、向柳原の医学館に京都の本草学者・小野蘭山が招かれ、近代植物学への第一歩が築かれました。また台東区内の各所では、寺社の境内で開かれる品評会や植木市によって園芸ブームの発信源が出現しました。明治時代には、菊人形や変化朝顔を目当てに浅草・入谷・谷中を訪れる人は後を絶たず、大正末期から昭和初期における関東大震災からの復興期には、学校庭園や学校温室など、教育施設で重点的に園芸が採用されました。

台東の園芸文化200年

東京勸業博覧會全圖



東京勸業博覧會全圖 明治39年博覧時報社

「ゆかり展」開催中～2010年12月15日

郷土・資料調査室では、貴重書・ゆかりの文人関連資料・画像資料などを所蔵しています。資料保存のため普段は一般公開していませんが、企画展示を行なわない時期には、それらの貴重資料をご紹介する機会として、「ゆかり展」を開催いたします。

2010年
12月17日～2011年3月16日

□「浅草十二階」凌雲閣ノスタルジア」

(展示の名称・期間は変更する場合があります)

日本初の電動式エレベーター設置建造物にして、浅草のランドマークだった凌雲閣。モダンな洋風建築でありながら劇場を持ち、美人コンテストの会場にもなったその存在意義はただの「高い塔」だけにとどまりません。

この展示では、印刷物・絵はがきなどの画像資料のほか、文学作品を通じて、失われた時代の幻のタワー、凌雲閣を振り返ります。明治から大正期にかけての、凌雲閣やその周辺に集った人々の息づかい、浅草の街のエネルギーを身近に感じていただきたいと思います。

2011年

3月18日～6月15日

□「新収蔵資料展」

(展示の名称・期間は変更する場合があります)

寄贈や購入により、新たに郷土・資料調査室収蔵品に加わった資料を実物やパネルでご紹介します。

案内

台東区立中央図書館 郷土・資料調査室
〒111-8621 東京都台東区西浅草 3-25-16
TEL / 03-5246-5911
ホームページ
・PC版 <http://www.taitocity.net/tai-lib>
・携帯版 <http://m-opac.taitocity.net/>
開館時間 月～土曜日 午前9時～午後8時
日曜・祝日 午前9時～午後5時

交通

- つくばエクスプレス「浅草」駅 A2出口から徒歩5分
- 地下鉄日比谷線「入谷」駅 徒歩8分
- 北めぐりん・南めぐりん 「生涯学習センター北」 徒歩2分
- 都バス「入谷二丁目」 停留所下車徒歩1分



高相嘉男写真展

「浅草を見つめた写真家」



浅草祭・事・季

平成22年2月19日[金] ▶ 6月13日[日]
(但し毎月第3木曜日は図書館休館日につき除く)
 午前9時～午後8時(日・祝祭日は午後5時まで)
 台東区立中央図書館2階 郷土・資料調査室
 台東区ゆかりの文学コーナー(入場無料)

アクセス 電 車 日比谷線「入谷」駅より徒歩8分
 つくばエクスプレス「浅草」駅より徒歩5分
 都バス 都41系統、上26系統「入谷二丁目」より徒歩2分
 めぐりん 「生涯学習センター北」「生涯学習センター南」より徒歩2分

台東区立中央図書館 〒111-8621 東京都台東区西浅草3-25-16 TEL. 03-5246-5911

円朝

平成22年度 企画展
 没後110年

2010年9月15日(水)まで開催中
※8月19日(木)は休館いたします。

開館時間
 月～土曜日 午前9時～午後8時
 日曜・祝日 午前9時～午後5時

展示関連イベント
 中央図書館落語会 ～夏の「芝浜」～

日時：2010年9月4日(土)
 午後4時～5時半
 会場：台東区生涯学習センター
 出演：三遊亭真楽(落語家・真打)
 ※裏面にプロフィール

円朝関連の落語とトークを行います。

申し込み方法：往復はがきで参加希望者1人につき一枚、
 往復はがきにイベント名「中央図書館落語会」と
 氏名・住所・電話番号、返信にあて先を記入
 申込み締切り：8月20日(金)必着
 定員60名：応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。
 申込み・問合せ：〒111-8621 台東区西浅草3-25-16
 台東区立中央図書館 郷土・資料調査室

台東区立中央図書館2階 郷土・資料調査室
 〒111-8621 東京都台東区西浅草3-25-16 Tel.03-5246-5911
 PC版 <http://www.taitocity.net/tai-shi/> 携帯版 <http://m-opac.taitocity.net/>

郷土史講座 「あれこれ江戸の旅」

古来より交通の要所であり、浅草寺や寛永寺といった旅の目的地も数多くあった台東区。江戸時代に入ると庶民による旅が定着し、さらにブームを迎えると、ますます訪れる人が増えました。本講座では旅にまつわる江戸時代の出版物を紐解きながら、台東区内の名所旧跡を織り交ぜつつ、当時の旅の様子をのぞいていきました。

- 各回18時30分～20時
- 2010年2月4日(木)
「地誌から見た江戸の旅―『江戸名所記』から『江戸名所図会』まで」
講師：齋藤智美氏(明治大学講師)
- 2月18日(木)
「江戸の行きだおれ」
講師：花木知子氏(府中市郷土の森博物館学芸員)
- 2月25日(木)
「旅日記から見た江戸の旅」
講師：佐藤 颯氏(明治大学助手)
- 3月4日(木)
「旅日記から見た江戸の旅2」
講師：加藤 芳典氏(文京ふるさと歴史館専門員)

各回とも活発な質疑応答が行なわれ、講師の方々にはテーマをさらに掘り下げたお話をしていたことができました。これまでの郷土・資料調査室開催の催しは土日の午後に行なうものが多く、「平日開催を

希望する」というご意見が多数ありました。また、お仕事帰りに参加される方や、学生の方の参加も想定したため、本講座は平日の夜(各回18時30分～20時)という時間帯を選んで開催しました。

アンケートのご意見などを参考に、参加をご希望される方のニーズを考えた催し物の開催曜日・時間帯を探っていきたいと思えます。

高相嘉男写真展

「浅草を見つめた写真家―『浅草祭・事・季』あさくささいじき」
 故・高相嘉男氏より寄贈された写真コレクションの中から、特に浅草近辺で催される多くの行事に焦点を当て、「祭り」を題材とした企画展示を行ないました。

- 《会期》
 前期：2010年2月19日～4月14日
 西の市・時代祭り(白鷺の舞)・羽子板市・大根祭り・どんと焼き・節分
 後期：4月16日～6月13日
 三社祭・ほおずき市・植木市・隅田川花火大会・浅草サンバカーニバル
- 会期中に開催される三社祭に合わせて、前期に「秋冬の祭り」後期に「春夏の祭り」と前後期で取り扱う作品テーマごとの展示替えをしました。

特設本棚には、生前の高相氏のインタビュー記事が掲載された雑誌をはじめ、浅草周辺で行なわれる行事に関する書籍などを配置。ケース展示では、高相氏オリジナル作品の

《会期》

- 前期
 2009年10月16日～12月16日
 後期
 12月18日～2010年2月17日
- 前後期で大きなテーマ変更を行ないませんでした。展示資料や解説の切り口を替え、台東区における園芸文化の変わりゆく姿・変わらない姿を表現していただきました。
- 《関連行事》
 □記念講演会
 「文芸作品から見た台東の園芸文化」
 2009年10月31日
 講師：平野 恵氏(明治大学文学部講師)
 江戸から明治期にかけて、園芸文化は広く根付いて発展を遂げました。同時代の文学作品に登場する様子から、台東区と園芸のつながりについてお話しいただきました。

講演会「江戸の教育力」

- 2009年11月29日
 講師：高橋 敏氏
 (国立歴史民俗博物館名誉教授)
 神社への届け書きや寺子屋の手習い帳・番付など、江戸時代の子育てや教育にまつわる資料をふんだんに盛り込み、江戸の教育事情についてお話しいただきました。

没後110年 円朝

現在の台東区にあたる地域で長く暮らし、下谷の地で没した三遊亭円朝(1839・1900)。本展開催の2010年はその没後110年でした。

円朝の断を現在へと伝える貴重な速記本の展示と並列して、特設本棚には『圓朝全集』全13巻や円朝が登場するフィクション作品など関連図書資料を集めました。

- 《会期》
 2010年6月18日～9月15日
 □中央図書館落語会「夏の「芝浜」」
 2010年9月4日
 講師：三遊亭真楽師匠(落語家)
 円朝作の断として有名な「芝浜」の口演と、円朝断や円朝からはじまる三遊亭一門などにまつわるトークをしていただきました。

またこの展示に関連して、中央図書館視聴覚コーナーでは「円朝断」を題材にしたCDの特集を組みました。
 こうした他のコーナーとの「タイアップ」企画は本展が初めてでしたが、今後も所蔵資料の活用と展示を積極的に結びつけ、図書館全体の活性化を図っていきたく考えています。